

活動分野	緑のおもしろ講座【千葉】		
タイトル	花見川開削の現場をたどる		
実施日時	平成30年10月14日(日)10時~14時		
実施場所	千葉市花見川区 花見川上・中流域		
受講者	8名	F I C会員他スタッフ	8名

### 活動の内容 江戸時代の「印旛沼堀割普請」による花見川開削遺跡を訪ねる

利根川の増水による印旛沼の水害の軽減と沼の干拓による水田開発を目的に、現在の新川と花見川とをつないで、沼の水を東京湾へ流そうと計画されたのが江戸時代の「印旛沼堀割普請」である。この工事は3回行われたが、いずれも失敗した。今回の講座は、花島と横戸間の台地部を開削した部分に残る、その開削遺跡を訪ねながら、背景となった地形や植生など、周囲の自然も観察しようと計画された。



**写真1.**花島公園に集合、朝方降っていた雨もこの頃には止む。

**写真2.**松本清張の「天保凶鑑」は天保期普請を題材に書かれた小説。花島観音はその舞台。その境内でイチヨウの葉を観察する。



**写真3.**花見川の側壁にはムクノキばかりからなる林。昭和の工事で植生が削り取られた跡。今は下層に常緑樹が育ち、遷移が進んでいる（お花見公園にて）。

**写真4.**勝田川と花見川をつないで台地部を開削した部分を歩く。この

部分は印旛沼水系と東京湾水系との分水界である。

**写真5.**台地部の開削によって生じた土砂は、開削部の両側に土手状に積み上げられた。この残土丘は現在も、花見川の両側に残っているが、東側の残土丘が現在の「横戸緑地」である。

**写真6.**「続保定記」の絵図に見られる、天保普請における台地部の開削工事。この工事は江戸の百川屋が雇い入れた人夫と庄内藩から動員された農民たちが担った。

**写真7.**横戸の墓地にある庄内藩農民の墓を見る。碑面正面には「庄内大服部村百姓仁兵衛墓」と刻まれ、側面には「下総印旛沼古堀筋御普請御手伝人夫墓な利天保十口月十三日羽州庄内を出？同」、「十四日病死志(?)？爰？葬？／これを発く古？なか礼／法名観阿道哲信士」などと刻まれている。**写真8.**国道16号線の横戸「房の駅」で解散。

